

ICT を活用した学習場面

A1 教員による教材の提示, B2 調査活動

社会科

4年3組 山本 智博

単元名：地域の発展につくした人々（8／9）

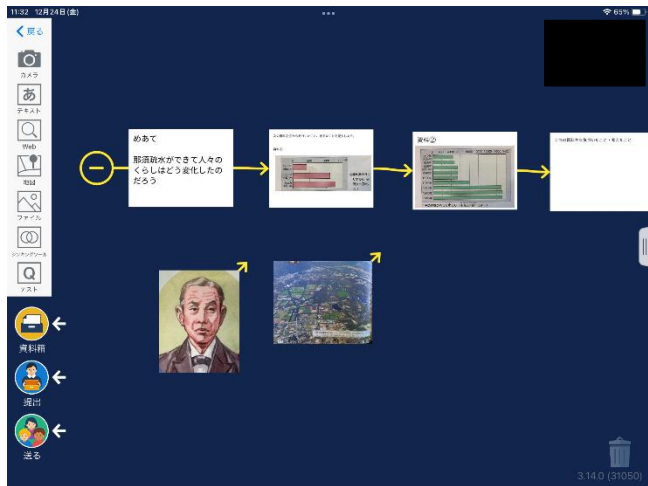
本時のねらい： 地域の発展に尽くした人々の功績やその思いについて，教師が作成した「大分の偉人カード」を分析したり，資料を収集し読み取ったりする活動を通して，地域の発展に尽くした人物がどのような思いで活動を行っていたのかを具体的に想像し，理解できるようにする。

評価規準：地域の発展に尽くした人々の功績やその思いについて，地域の発展に尽くした人物がどのような思いで活動を行っていたのかを具体的に想像し，理解できるようにする。【思考・判断・表現等】

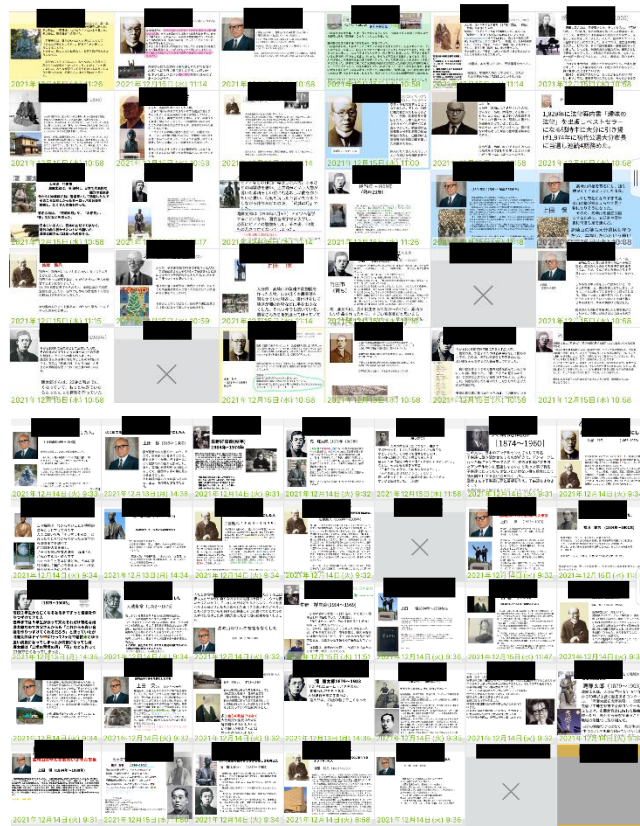
指導の流れ

児童の活動（ICT 活用の様子）・ICT 活用のねらいや留意点

1. 提示した資料から読み取れることを交流し，なぜそのような結果になったのかを考える。
2. 資料から読み取ったことをもとに，結果的に人々の暮らしがどう変化していったのかを考え，矢板武さんがどのような思いを持っていたのか想像するようにする。



教師が模範的な操作をすることで活用の仕方を示し，児童自らが活用できるように切り替えていく。補足説明や発言の繋がりがある場合も想定し，教師用の iPad1 台を発表では使用する。



3. 話し合いで明らかになったこと，分かったことを確認した後，結果を共有し，自分の調べ学習に生かすようにする。

ICT 活用の効果（困りが解決されたか）

成果：提示資料に簡単に書き込み・修正を行えるため，話し合いのツールとして有効に使える。また，お互いの考えを共有しやすく，資料の読み取りや話し合いが苦手な児童も参加への意欲が高まりやすい。全体で共有した考えや結果と自分の調べた内容を比較する際にも簡単に利用できるため，調べるポイントや考えるポイントを全員に確実におさえることができる。

課題：操作に慣れるまでに時間がかかる。操作の得手不得手があるため，活動時間に大きな差が生じやすい。そのため，調べた情報を児童同士で関連付ける活動が時間内にできにくい。